

不登校対策における校内体制と 居場所づくりの構築



～特別支援校内委員会・地域
を活用した登校支援～

「不登校生徒支援」

八王子市立恩方中学校



本校は八王子市で不登校対応教員加配校の指定を受けており、令和5年度、1年間不登校生徒を支援する研究を行ってきた。本研究の特徴は、「不登校対策委員会」を中心としたチーム指導である。特別支援教室(ステップ教室)などの「特別支援チーム」や、学校以外の第三者で構成された「チーム学校」との連携により、不登校生徒に対してきめ細かい対応をした事例を紹介する。

対象生徒は、前年の遅刻欠席率が62.8%を超えており、小学校段階から生活リズムの昼夜逆転の傾向が見られた。担任の根気強い家庭訪問や働きかけにより、週に1、2回登校している状況が続いていた。



八王子市立恩方中学校

本年度のスローガン

「改革とチャレンジ」



学校ホームページ

研究主題を実現するための取組

1. 不登校事例に応じたアセスメントを行う。

チーム支援

- ①学級担任や養護教諭、スクールカウンセラーが生徒、保護者への聞き取りや面談を行い、生徒の特性や状況、家庭の困り感等の情報を把握する。
- ②登校支援コーディネーターを中心にケース会議を開き、チーム支援の必要性や方向性を校内で確認する。その際、特別支援教室専門員も参加し、巡回心理士からのアドバイスを共有する。



2. 特別支援校内委員会にて対応策を検討する。

第三者連携

ケース会議を踏まえて、特別支援校内委員会（不登校対策委員会）にて、生徒の状況や変化を共有し、個別の対応策を参加メンバー全員で協議する。校内委員会には、子ども家庭支援センターの担当職員や民生児童委員、スクールソーシャルワーカーにも参加してもらい、第三者連携の可能性や方向性を確認する。対応策を検討することを通して、不登校生徒の要因として、「発達の課題」や「家庭の問題」があることが明らかになった。



研究主題を実現するための取組

3. 生徒の「発達の課題」に

対する支援を行う。

特別支援

クロス指導

生徒の発達の課題に対しては、特別支援教室（ステップ教室）と連携したクロス指導を行う。特別支援教室専門員と学級担任が密に連絡を取り合い、生徒の支援目標や取組を共有し、特別支援教室と通常の学級それぞれで発達の課題への支援を行う。主に特別支援教室ではソーシャルスキルトレーニングを通して他者と関わりながら生活できるような働きかけを行う。また、特別支援教室専門員を交えて巡回心理士のアドバイスを受ける。



4. 第三者連携による「家庭支援」を行う。

保護者支援

第三者とは…

子ども家庭支援センター、民生児童委員、学校運営協議会 等

- ① 子ども家庭支援センターやスクールソーシャルワーカーと連携し、保護者への支援を行う。
- ② 民生児童委員による家庭訪問や放課後の活動支援を行う。
- ③ 学校運営協議会による放課後基礎教室への参加を促し、学習支援を行う。

これらのような取組には、「子ども支援」という共通認識の下での、第三者連携が重要である。



研究成果と課題

成果

丁寧なアセスメントやチーム支援によって、前年の遅刻欠席率 62.8%から53.8%となり、9.0ポイントの改善が見られた。

入学当初は欠席する生徒が半数を占めていたが、現在では遅刻が大半を占め、不登校状態は解消したと考える。

取組の効果



課題

より充実した保護者支援が必要である。特に、進学に向けた情報提供や学習支援について、第三者との連携を図っていくことが重要である。

今後は、バーチャルラーニングプラットフォーム（VLP）を活用した学習支援など、「子ども支援」をより一層推進していく。

今後の課題

保護者支援

- 継続的に環境面への働き掛けを行う

生徒支援

- 基礎的・基本的な学習内容の定着を図る

進学支援

- 無料塾との連携や進学に伴う費用の確保

まとめ

多くの学校が不登校対策に取り組んでいるが、不登校対策は担任が一人で担うのではなく、学校が組織として対応し、必要に応じて関係機関と連携して取り組むべきものである。

第三者連携はコーディネートする側の力量が問われるが、学校が一丸となって取り組むことで、適切に連携を図ることができる。

生徒が安心して学校生活を送るためには、「地域と共に歩む」ことが大切であり、そのためには、学校と地域が連携

まとめ



担任や学年だけが抱えて悩むのではなく、生徒一人ひとりの課題に寄り添う指導が大切である。